

■(有)山迫建築企画設計事務所
熊本県建築士会宇城支部長

1 はじめに

今回、建築士くまもとへ寄稿するにあたり「宇城支部 40 周年の歩み」と題し、これまでの活動を振り返る機会とさせていただきます。

40年の歳月の中で数多くの取組みを行って参りましたが、その中で平成8年に実施した松橋町でのまちづくりワークショップを御紹介致します。この取組みは、カリフォルニア工科大学の先生をお招きし、地元から選ばれた子供たちと百年後の松橋町をテーマに話し合いを行ったものです。建築士会としては、子供たちとの会話の中で町に必要な施設はどのようなものか考える良い機会となりました。

近年の支部活動においては、青年部を中心にさまざまな活動を行っておりますが、その中でも小川工業高校での実務講演会について御紹介させていただきます。

昨年は地元宮大工の宮崎さん、
会員の岡本さんによる設計、そし
て緒方さんによる施工の講演を行
っていただきました。

ともに、人生経験から話す生きた内容は彼らの将来に少なからず役立つ取組みだと思っています。

去る 11 月 28 日(土)、宇城支部
創立 40 周年記念忘年会を開催いた
しました。総勢 55 名の方にご出
席を賜り、たいへん華やかながら
も、終始和やかな雰囲気の中、多
くの御来賓や懐かしい顔ぶれとの
再会を果たし、思い出話に花が咲
きました。当支部をこれまで支え
て戴いた皆様にこのように多くお
集まりいただけたことは、何より
の喜びと感じております。

今後も関係諸団体様や会員と協力し、地元と地元で暮らす皆様のために有意義で魅力ある会として邁進していく所存でございます。

どうぞ、今後とも宇城支部をよろしく願い申し上げます。

なお、来年度のソフトボール大会は宇城支部開催でお願いさせて頂きました。ぜひ、皆様の御参加をお待ちしております。



盛高 麻衣子

■八代市役所 建築指導課

福島の今（震災復興の現状）

熊本県建築士会女性部会では、福島県建築士会女性委員会の協力を得て、10月10日～12日に福島視察を行いました。この場をおかりし、皆様にご報告いたします。



【福島県女性委員会の取り組み】

福島視察のきっかけとなった、福島県女性委員会様の活動内容について、ご紹介します。



住環境を改善することで子供達の放射線リスクを低減できないかを

検討するため、各建材の放射線遮蔽効果実験や、実際に原発から約15kmの居住制限区域内に「既存住宅の改修」と「新築住宅」のモデル試験体をつくり、遮蔽性能試験を行い、その結果、既存改修で27.6%、新築で39.4%の遮蔽効果が確認されました。その実験過程から結果までを1冊にまとめ、少しでも安心して暮らせるよう情報発信をされています。こちらの冊子は、活動支援を兼ねて熊本県建築士会事務局でも販売しておりますので、ぜひご活用ください。

【相馬 こどものみんなの家】

放射線を気にせず遊べるよう、募金活動により寄贈された屋内型の遊び場。設計：伊東豊雄氏 他



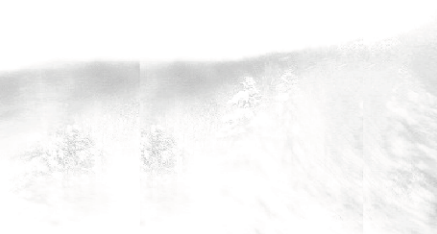
【相馬市 LVMH 子どもアートマゾン】

ルイ・ヴィトン（LVMH）の支援による心のケアアート施設。机や椅子には紙管が使われています。設計：坂茂氏



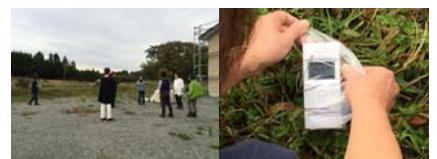
【復興住宅】

相馬市では、城下町の景観で観光復興を図るため、復興住宅をはじめ、公共施設は統一された和風のデザインで整備されています。



【住めない家】

放射線遮蔽住宅のモデル試験体を建てた場所である福島県女性委員会様のご自宅を伺いました。震災直前に完成した立派な和風の住宅ですが、居住制限区域に指定されたため1度も住めないままの状況です。線量計で敷地内を測るとかなり高い数値でした。



【増え続ける放射線廃棄物】

黒い除染袋（フレコンバック）には、剥ぎ取られた表土等が入っており除染作業が進むにつれ増え続け、住民説明や地権者の同意に時間がかかるため、その仮置場が追いつかない状況。処分場が決まらないので仮置場を増やすしかない状況。



【人がいない異様な町】

帰還困難区域は原則立入禁止・防護服着用で立入可能となる地域。

震災後、窃盗などの犯罪が多発

した為、国道沿いの交差点には全てにゲートが設置され主要な場所には警察官の姿も見られ、応援パトカーによる巡視も行われていました。



地震や津波による被害があっても片付けや修繕ができないため、4年前の3月11日から時計がとまったままの状況。線路も除染作業ができず、その区域は不通のまま。



【放射線量率】

線量計を片手に相馬市から富岡町まで国道6号線を南下すると基準値の1/10以下の数値が続き、除染作業効果(3cmの表土を入替すると数値は半分以下になること。)を感じました。除染作業が手付かずの山側や除染袋仮置場周囲では高い数値となる場所もありました。

原発周辺は、大手建設会社が町ごとに担当を決め除染作業中ですが、オリンピック建設ラッシュで早々に引き上げられ、町が見捨てられないかという心配もされていました。

【小学校校庭内にある商店街】

防波堤が数十cmしかなく津波

や火災により壊滅的な被害を受けた商店街が、いわき市立の小学校校庭内に仮設商店街をOPEN。

復興情報館には震災後の写真やパネル、全国から寄せられた応援メッセージなどが壁一面に並んでいます。

引越し当初は毎日涙を流されていた各商店の方々も、お客様と話をするにつれ前向きになり、元気を取り戻されたそうです。



【様々なボランティア活動】

ボランティアセンターの窓口5,6人に対し1日3000~4000人のボランティア希望があり受け入れきれず4時間待ち。そこで地元青年等を中心に様々なボランティアの輪が広がったそうです。

具体的には、高齢者の負担軽減のための片付けボランティア、町を片付けるための手作業解体ボランティア、がれきばかりでカーテンを開けたくならない景色の中、少しでも心を癒せたらと始まった、外壁に花を描くボランティア等です。



【補助額・価値観の相違】

原発補償による不動産バブルで

4000~5000万円の家が建築ラッシュですが移住して”うつ病”になることも。同じ津波や地震による被害を受けていても原発からの距離に応じてその補償額は大きく異なり、それが対人トラブルの原因にもなっています。また、家族内でも1人1人価値観が違うため様々な課題があるとのことでした。

【おわりに】

原発の影響で、いまだに自宅に戻れない地域がある一方、普通に暮らせる地域もあります。今回の視察では、その両面のある福島の実況を直接みて現在の被災地の状況や課題等、メディアの情報だけではわからなかった生の声を知り、体感することができました。

このような状況の中、福島の方々は、明るく前向きな姿勢で様々なことに取り組まれています。放射線量率も一部の地域を除いて基準値の1/10程度、農産物も合格したもののみが流通されています。国の重要伝統的建造物群保存地区である大内宿や国指定重要文化財のさざえ堂等のすばらしい観光資源も沢山あります。福島の生の現状を知っていただき、風評被害などの誤解されがちなイメージの払拭の一助となれば幸いです。

最後に、本視察に多大なご協力を頂きました福島県女性委員会の方々に心からお礼を申し上げます。

TOPICS 情報

平成28年度 第65回 通常総会開催のお知らせ

平成28年6月10日(金) KKRホテル熊本にて開催予定です。



玉野 龍

■熊本市都市建設局営繕課

青年部副部長

第6回全国建築士フォーラム及び第58回建築士会全国大会石川大会の報告

【はじめに】

平成27年10月29日から30日にかけて、青年部メンバーと石川県金沢市で開催された標記大会に参加してきました。

小松空港から会場周辺へバスで移動すると、金沢駅前で鼓をイメージした「鼓門」と巨大なガラスドーム「もてなしドーム」が迎えてくれました。



【全国建築士フォーラム】

このフォーラムは、第4回大会から全国7ブロックの地域実践活動の発表の場になっています。今

大会までは建築士会全国大会の非公式行事ですが、次回からは公式行事として開催される予定です。

今回は、全国から300人を超える青年建築士が参加する大会になりました。

最初に各ブロックの地域実践活動事例が発表されました。九州ブロックからは、今年6月に開催された「建築士の集い 佐賀大会」で1位となった佐賀県が「ありたうちやまあるき」を発表しました。



各ブロックの発表を聞いた後、参加者がそれぞれ興味を持った発表のワークショップに3つ参加します。その後、参加者が投票を行い最優秀賞と優秀賞を決定しました。



まちづくりが課題となっている地区では、地域実践活動を通して

建築士という存在を知ってもらうことから始まり、地域実践活動を通して信頼を得て、まちづくり活動につなげているようです。

また、積極的に行政にアプローチをかけ、行政を巻き込んだ活動を行っている建築士会もありました。

【建築士会全国大会】

建築士会全国大会は、「百万石の地で触れよう 未来につなぐ まちづくり」をテーマに様々なプログラムが開催される中、私は、交流セッションに参加しました。



交流セッションは、青年委員会、女性委員会、まちづくり委員会の3委員会合同セッションでした。

青年委員会は、「空き家の活用・まちおこし」をテーマにセッションを行いました。京都府建築士会は平成23年から空き家対策プロジェクトを立ち上げ、平成26年に『空き家の手帖』を出版しています。長野県建築士会は数年来続けてきた古民家調査が空き家問題の礎となり、空き家のリノベーション案を提示する空き家再生活動

TOPICS 情報

韓国 慶尚南道建築士会来熊のお知らせ

平成28年3月末から4月に来熊の予定。交流会を開催いたします。

建築士くまもと

へつながっています。新潟県建築士会は、ある会員がコミュニティデザインと出会ったことをきっかけに、まちづくりにつながる様々なワークショップを開催したり、行政に対し、ハード整備である空き家リノベーションとその建物を使ったソフト事業まで含めた提案をしたりしています。

女性委員会は、「未来へつなぐ居住環境づくり」をテーマに、女性の視点、立場からの問題提起と問題解決のヒントを示しました。

まちづくり委員会は「歴史と景観」ー歴史・景観まちづくりと自治体連携ーをテーマにセッションを行いました。石川県建築士会から、金沢の歴史的建造物の保全改修事業への行政と建築士の連携等についての報告があり、宮崎県建築士会からは、高鍋町の景観行政への支援や提案活動についての報告がありました。



3委員会合同パネルディスカッションでは、熊本県建築士会の豊永信博さんがコーディネーターを務められました。パネルディスカ

ッションで印象に残ったのは、「建築士の職能は、施主や関係者の意見を聞き、様々な要望を取りまとめ、建築という形にするということであり、その職能を活かしまちづくりに参加する」ということです。

この職能をまちづくりに活かすことが建築士の存在を世間にアピールすることにつながるのではないのでしょうか。まちづくり活動に当てはめると、地域のワークショップのファシリテーターとして意見の集約、取りまとめを行い、その課題解決のためのソフト事業の提案や、事業化のサポートをしていくことなどが考えられます。そのような活動を継続して行うことで、建築士の存在が世間に周知されるのではないかと思います。

以下が、実践3委員会の共同宣言です。今後の活動の指標にしてみてはどうでしょうか。

- 歴史的建造物や街並み、地域の優れた景観・個性を、未来につなぐ試みに取り組む。
- 少子高齢化社会を見据えたこれからのユニバーサルデザインの在り方を考えると共に必要とされるコミュニティの復活を目指す。
- 人材・資材・資金を求める前に、今ある現状でできることをまず動く「ありがとう」につながる

活動を行う。

- (公社)日本建築士会連合会は、これからの活動に意欲的に取り組む地域密着の建築士への協力・支援をこれまで以上に行う。



最後に大会式典に参加しました。各表彰が行われ、地域実践活動最優秀賞の長野県と優秀賞の愛媛県の表彰もありました。



【おわりに】

来年は、10月22日に大分県で全国大会が開催されます。その前の6月25日には九州ブロック「建築士の集い」宮崎大会が開催されます。

お金と時間は使いますが、全国や九州の建築士仲間と繋がってみませんか。その大会を通じて建築士として何か感じることもあるでしょうし、現在考えていることに対して何かヒントが見つかるかもしれませんよ。

建築士くまもと



坂本 勇

■有限会社 松本一平建築設計事務所
あらたま支部 事務局

第 39 回ソフトボール大会

今年の親睦ソフトボール大会はあらたま支部が担当、10月18日に荒尾市の荒尾運動公園ソフトボール場及び多目的広場で開催されました。

当日は晴天に恵まれ格好のスポーツ日和の中、全県から17チーム316名（お弁当の数）の参加があり、事故もなく無事に大会を終了出来た事に、審判団や交流委員会等関係者及び参加者にお礼申し上げます。

優勝は賛助会チーム、準優勝は菊池チーム、3位は人吉、宇城チームでした。優勝の賛助会チームおめでとうございます。

また、前日のゴルフ大会に26名、見学会18名、交流会に137名もの参加して戴き本当に感謝いたします。

（交流会場については、会場が狭く、皆様に窮屈な思いさせました事をお詫び申し上げます。）

「え〜っ！なんで受けてきたの？」

昨年の菊池大会の泗水グランドでの私の正直な感想でした。前日の交流会で壇上に立った諏訪本さんが立候補したそうです。

思えば14年前、当時、「荒尾支部」と「玉名支部」が合併し、[あらたま支部]となりそれを記念して天水町総合グランドで開催しました。当時の主力メンバーは、まだ若く前夜祭は玉名温泉でバーベキューをしたことを思い出します。当時の事を覚えてくれている会員もいてうれしく感じました。熊本県建築士会は12支部あり、そろそろあらたま支部に順番が回ってくる予感がありました。しかし、実際やるとなると、支部の高齢化も進み毎年のソフトボール大会参加ですら、なかなか人が集まらず苦労している支部では無理と考えていました。でも、決まったからにはやるしかありません！早速、実行委員会を立ち上げ言い出しっぺの諏訪本副支部長を実行委員長として、準備を始めました。初めにどこで行うか、会場選びから始まります。このような体育施設の予約は年度が始まる前にはほぼ決定していて、秋季はどこも通年の大会が重なっていて、予定を入れるのが難しく、特に屋外でやる大会は、予備日等があり予定が組みにくいのを私も今回初めて知りました。

た。幸いにも10月18日を抑えることができ、交流会の会場も出演者もなんとか決定し、あとは当日の天気を祈るのみでした。

大会当日は、会員の日頃の行いが良かったためか前々年までの4年連続の雨天中止に引きずられることなく晴天に恵まれ気持ちのいい一日でした。支部スタッフは、道案内、駐車場の案内、お弁当係、コート係など選手を除く総勢20名で対応しました。スタッフの皆様ご苦労様でした。改めてお礼申し上げます。

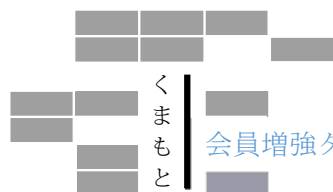
あらたま支部チームの成績は、ワールドカップみたいな開催地枠があればよいのですが、例年通りの予選落ちでした。（今回、初めて閉会式に参加することが出来ました！）

終わった感想としては、準備期間は、長いようで短い10か月でした。やっと終わりました！ほっとしました！良かった！良かった！

また、普段はなかなか参加できない会員も今回は特別だからと協力していただき、支部の活性化に繋がりました。

来年の開催支部さん大変ですが支部の活性化には繋がります。頑張ってソフトボール大会を続けていきましょう！

第50回親睦ソフトボール大会を目指して！



会員増強タスクフォース委員会から

建築士くまもと



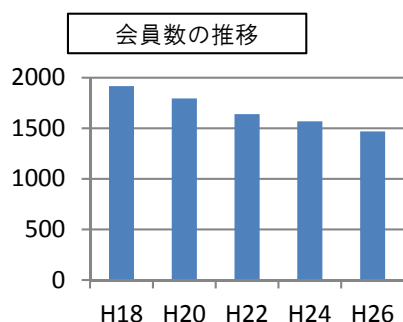
小佐田 洋一

■ 県央広域本部土木部 景観建築課
タスクフォース委員会 委員

会員増強タスクフォース委員会とは？

1 はじめに

会員増強タスクフォース委員会は、建築士会の会員が減少する中、会員増強及び拡充のための施策を理事会へ提案することを目的に、平成25年度に特別委員会として創設された委員会です。



初代委員長は上妻清人氏、現在は、磯田桂史副会長が委員長です。

委員会の構成としては、幅広い意見を集約させるため、士会活動に熟知したメンバーの構成となっています。また、各支部長にも顧問になっていただいています。

【委員会メンバー】

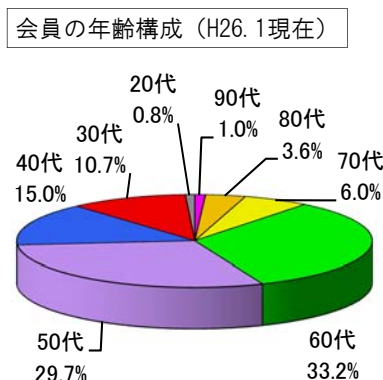
委員長	磯田桂史
副委員長	志水一博
委員	跡部英広、小佐田洋一 甲斐健一、小路永守 原和義、廣田清隆、 持田美沙子
顧問	各支部長

2 活動内容

①会員の分析

まず、委員会として最初に行ったのが、会員の分析です。年齢や職種の構成、入会者・退会者の状況等のデータ分析を行いました。

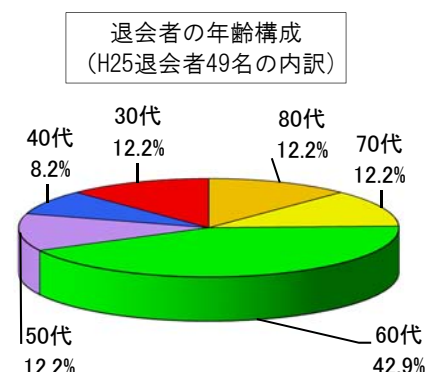
分析の結果、活動の主體的な立場である若手建築士（30～40代）の割合が25%程度である一方、60代以上は40%を占めることが判明しました。



また、退会者の分析を行ったところ、半数が60代以上であることを考えると、将来、会員が大幅に減少する恐れがあることが分かりました。

そのため、「若手会員を増やす取

り組み」「高年代の会員が退会しない取り組み」等の検討が必要です。



②理事会に提案した取組 （学生会員制度の創設）

現在、本委員会で取り組んでいるのが、学生会員制度です。学生のうちから建築士会の制度を理解して頂き、将来的に正会員として入会してもらう内容です。

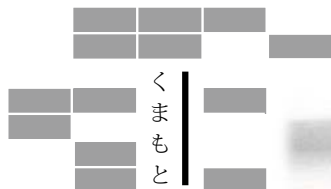
専門学校・大学等の学生が対象で、初年度に登録料として2千円、年会費は0円です。特典としては、士会主催行事への参加、建築情報の提供です。

すでに先日の理事会に提案し、承認になったことから、今年度より実施することになりました。

他にも青年部会と連携した免許交付式内での新規資格取得者の勧誘、青年部会OBへの活動の場の検討、高年代の退会抑制のための検討など、様々な課題があります。引き続き、より良い建築士会のために活動を行っていききたいと思います。

TOPICS 情報

熊本県建築士会宇城支部・牛深支部が40周年を迎えられました。
また、宇城支部にて今年のソフトボールを開催する予定です。



村上 亜紀

■熊本市都市建設局開発景観課

熊本市の町並みづくりについて

熊本市では、市域全域を景観計画区域とし、「水と緑と歴史が育む賑わいと活力が湧く くまもとの景観づくり」という理念の下、良好な景観形成の実現のため、「協働の景観づくり」を行っています。

特に、歴史的資源が残る「新町・古町地区」と「川尻地区」では、地域と協働で「町並みづくりガイドライン」を策定し、地域の歴史を感じられる町並みづくりに取り組んでいます。

このガイドラインに沿って、一部の街区では町並み協定が締結されているほか、町屋をめぐるイベントを実施する等の活動が行われています。

また、熊本市では、建造物の所有者等に対して町並みづくりの保存・修景基準に適合した建造物の修景工事にかかる費用の一部を助成する

事業を行っています。

新町・古町地区について

平成 24 年度から助成事業をスタートした「新町・古町地区」では、現在までに 24 件の町屋等が趣を取り戻し、魅力的な佇まいとなりました。



▲改修前(上)改修後(下)

助成事業をきっかけとして空家だった町屋に飲食店が入り、夜も営業するお店が増えるなど、町の賑わいにも変化が出てきています。

また、昨年度は、地元の有志を中心に結成された「町屋研究会」と共催で、町屋の保存・活用への関心を高めることを目的に、「町屋めぐり」というイベントを行いました。当日、ガイドツアーを行ったほか、大学生による

デザインコンペで選ばれた町のマークを染め抜いた暖簾を作成しました。



▲町屋めぐりの様子

川尻地区について

「川尻地区」においては、今年度助成事業がスタートしたばかりですが、現在 1 件が完成しています。今後更に、地域と協働し、川尻地区の歴史を活かした町並みづくりに取り組んでいきます。

ガイドラインや助成事業の詳しい内容については、開発景観課のホームページを参照いただき、ご不明な点は下記へお問い合わせください。

熊本市都市建設局
開発景観課景観整備班
096-328-2507

kaihatsukeikan@city.kumamoto.lg.jp

発行：(公社) 熊本県建築士会 編集委員会

藤本国範 堺武治 田尻昭久 田中章友 中島祥貴
原野真司 松村志磨子 宮本朋子